

家康公と息子たちゆかりの地

MAP P32-33

- 【浜松市】
- 11 清瀧寺
- 12 中村家住宅
- 13 太刀洗の池
- 14 五社神社・諏訪神社
- 15 気賀関所
- 【湖西市】
- 16 本興寺
- 【袋井市】
- 17 秋葉総本殿 可睡齋

悲喜「こもごも」 家康公の息子たち

戦国時代の武将は、正妻の他に何人もの側室を持つことは当たり前で、子どもの数も多い。家康公も息子が11人いたとい



11 清瀧寺

非業の死を遂げた家康公の嫡男・信康。清瀧寺は信康を弔うため、家康公が建立した寺。寺の奥には信康廟がある。毎年10月、信康の霊を慰める「信康まつり」が行われる。

浜松市天竜区二俣町二俣1405
☎053-925-3748
開館時間／9:00～17:00
入場料／境内自由

12 中村家住宅

家康公の側室・お万(まん)の方が、家康公の第二子・於義丸(おぎまる)(後の結城秀康)を出産した屋敷。出産時の胞衣(えな)(後産)を埋めた胞衣塚も現存する。

浜松市西区雄踏町宇布見4912-1
☎053-596-5585
開館日／金曜・土曜・日曜・祝日(12月28日～1月4日は休館)
会館時間／9:30～16:30(入館は16:00まで)
観覧料／高校生以上200円、小中学生100円



家康公と関わりが深い可睡齋

寺号の「可睡齋」は、家康公により名付けられたものです。これには逸話があり、まして、11代目の住職、仙麟等膳和尚は、竹千代君(家康公)を助けたのが縁で浜松城主になった家康公と対面することになったのですが、その場で居眠りをしてしまいました。それを家康公は「和尚、眠るべし」と許しただけでなく、可睡和尚という名を付け、寺の名前も東陽軒から「可睡齋」と改められました。家康公はユーモアのある人だったようです。

十萬石の待遇を受け、住職は一带の寺院を統括する東海大僧録司を務めました。住職も12

いう。

家康公は忍耐と苦難に満ちた歳月を過ごしたが、その人生の中でも嫡男・信康の死は齒を食いしぼって堪え抜いたできごとだったといわれる。信康は、織田信長から「敵方の武田家に通じている」と疑いをかけられ、二俣城で自害した。信長の命令を受けて、信康に切腹を命じたのは父親である家康公だったのだ。この悲劇は信康が21歳、家康公が38歳の時に起きたという。

二男の於義丸は、秀吉の養子となり秀康を名乗り、さらに後に結城家に養子になった。三男の秀忠が二代将軍となり、家康公の跡を継いで徳川幕府の基盤を築いてく。

ここでは家康公と息子たちにゆかりが深いスポットを中心に紹介しよう。訪れることで、武将としての家康公だけではなく、息子たちに対する父親としての思いも感じてみたい。

15 気賀関所

1601年(慶長6年)、宿場町だった気賀に家康公が気賀関所を創設した。建物も再建されているので、江戸時代の雰囲気も楽しめる。



浜松市北区細江町気賀4577 ☎053-523-2855
開館時間／9:00～16:30 休館日／無休
入館料／大人200円、中学生以下は無料
※団体・20人以上 160円、70歳以上は証明できるものを提示すれば免除



16 本興寺

家康公の側室・西郡(にしごり)の方の信仰が厚かったといわれる寺。歴史ある古刹(こさつ)としても有名。江戸時代に家康公から朱印地を拝領し、葵の紋の使用を許されたといわれる。

湖西市鷺津384 ☎053-576-0054
開館時間／9:00～16:30(開門17:00)
休園日／不定休(12月31日は休) 入園料／大人300円、小人200円

13 太刀洗の池

家康公の正妻で信康の母親、築山御前(つぎやまごぜん)ゆかりの地。築山御前は武田家と通じて家康公や信長を裏切ったとされ、家康の家臣に殺害された。その時使われた太刀を池で洗ったため、水が枯れたといわれる。



浜松市中区富塚町328
見学自由



14 五社神社・諏訪神社

五社神社は三男・秀忠が誕生した際、秀忠の産土神(うぶすながみ)として浜松城内から移された。現在は五社神社の境内に諏訪神社があるが、かつては北側に五社神社、南側に諏訪神社が並んでいたという。

浜松市中区利町302-5
☎053-452-3001



17 秋葉総本殿 可睡齋

約10万坪の敷地に本堂や秋葉総本殿三尺坊(さんじゃくぼう)様御真殿、座禅堂など、建物の内外に35ヶ所の見どころがあり、牡丹や紅葉など四季折々の自然の美しさも楽しめる。また、座禅、写経、精進料理など様々な体験ができる。

静岡県袋井市久能2915-1
☎0538-42-2121



出世六の字穴

世から45世までは徳川幕府により決められるなど、家康公、徳川家とは深い関係にあり、本堂屋根など様々なところに三つ葉葵があります。

奥の院の手前に洞穴があり、これは戦国時代の家康公が武田勢から逃れるために隠れて命拾いをしたところ。後に家康公が出世したことから「出世六の字穴」とも家康公の呼び名から「権現洞」とも呼ばれています。

また、家康公が築山御前の亡霊に悩まされたときも、等膳和尚と12世、13世となった弟子が霊を鎮めたという話も伝わっています。

家康公の御位牌はじめ、家康公の肖像画を描いた掛軸や家康公所持の大黒様の掛軸など、家康公や徳川家ゆかりの品々も多数所蔵しており、それらは宝物館で展示しています。



秋葉総本殿 可睡齋
佐瀬道淳 齋主老師